

次の助動詞の表を、文法書を参照して完成させよ。

り	まじ	じ	けり	き	ず	む	たり	ぬ	なり	なり	
											未然形
											連用形
											終止形
											連体形
											已然形
											命令形
							連用形		終止形・ラ変型の連体形	連体形・体言	接続
											意味
											訳し方

◆ 次の各文で、係り結びを探し、係りの箇所を○で囲み、結びの箇所を二重傍線を記してみよう。

a 宿貸す人もあらじとぞ思ふ

b 散ればこそいとど桜はめでたけれ

c うき世に何か久しかるべき

d その宮へなむおはしましける。

◆ 次の各文を、□で囲んだ部分に注意して口語訳してみよう。

① 親王おはしまし^{けり}

〔訳〕 親王が〔

② 天の川原に我は来に^{けり}

〔訳〕 天の川の河原に〔

③ ねむごろにもせ^で

〔訳〕 (狩りは)

④ なかり^{せば}、春の心はのどけから^{まし}

〔訳〕 (

⑤ 憂き世になにか久しかる^{べき}

〔訳〕 (

⑥ この酒を飲み^{てむ}

〔訳〕 この酒を〔

⑦ 大御酒^{参る}

〔訳〕 御酒を〔

⑧ 詠みて^{奉り}ける

〔訳〕 (歌を)〔

⑨ 返し^えしたまはず

〔訳〕 返しの〔

⑩ あら^じとぞ思ふ

〔訳〕 いない〔